

# 子どもの自殺予防に 向けた取組の検討

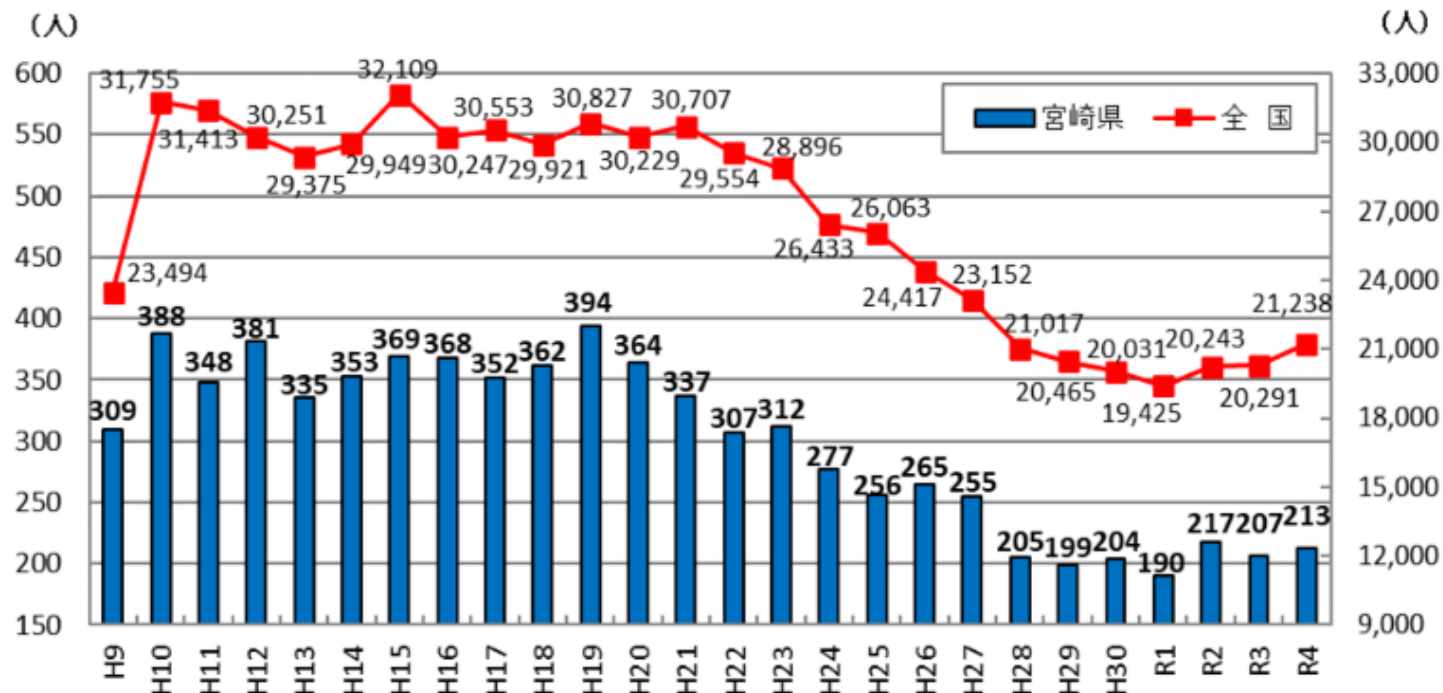
- 土谷桃子<sup>1)</sup>、倉永笑民<sup>1)</sup>、阿南裕子<sup>1)</sup>、  
上原千枝<sup>1)</sup>、高藤ユキ<sup>2)</sup>、豊嶋典世<sup>1)</sup>  
日向保健所<sup>1)</sup>、小林保健所<sup>2)</sup>



はじめに

# ～全国の自殺の現状～

■全国と本県の自殺者数の推移(平成9～令和4年)

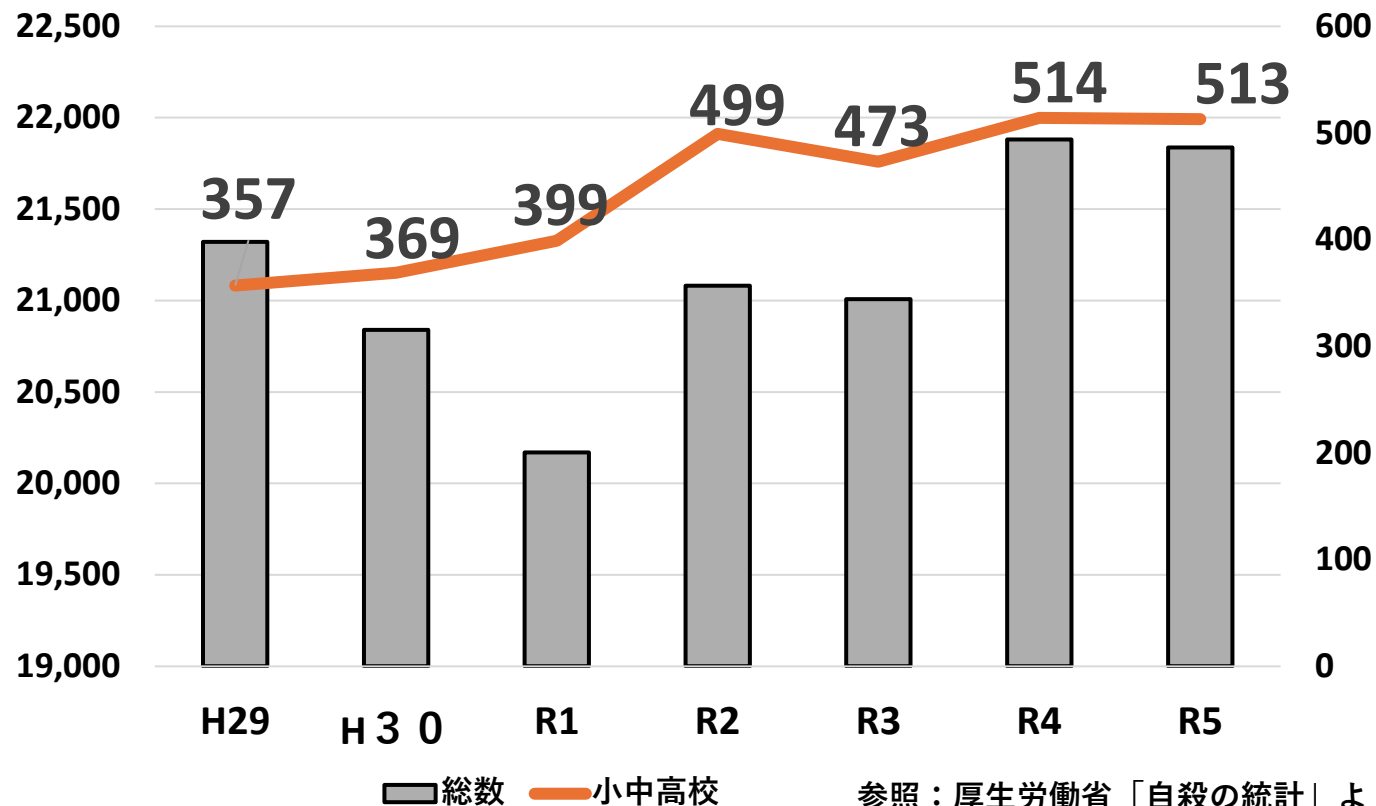


参照：厚生労働省「人口動態統計（確定数）」より県作成

全国の自殺者数はH15年がピークで、R4年は21,238人

# ～全国の自殺の現状～

■全国の自殺者数と小中高校生の自殺者数

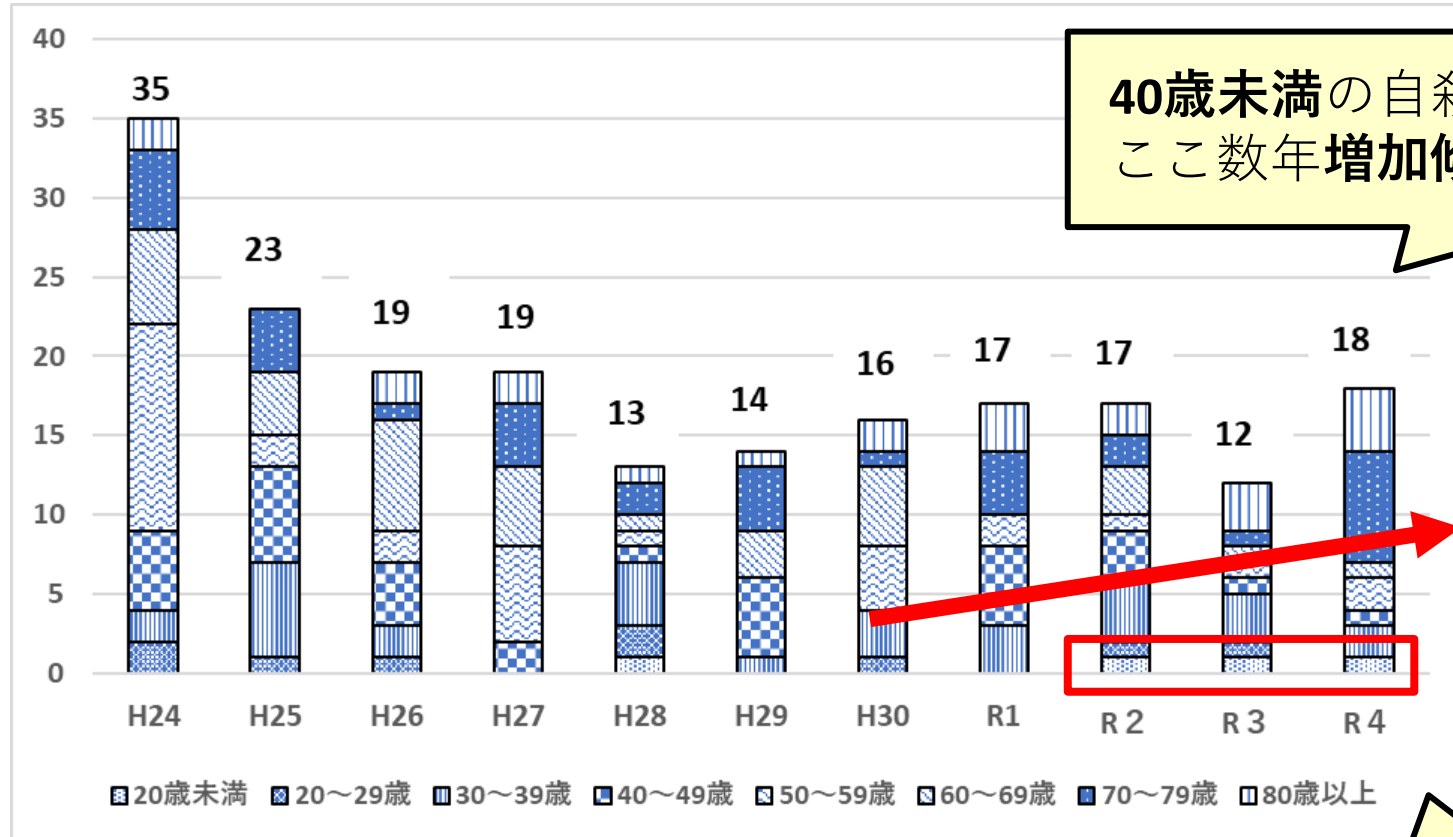


全国的にみると、小中高校生の自殺者数はR2年に大幅に増加し、R4年は過去最多の514人

⇒自殺総合対策大綱では「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」が掲げられている

# ～日向入郷地域の自殺の現状～

■日向入郷地域 自殺者 総数



参照：「地域自殺実態プロフィール2023年更新版」より保健所作成

R2～4年は  
20歳未満の自殺者あり

# ～日向保健所の相談状況～

## 日向保健所の相談件数

R3年度：実107人（うち自殺に関すること 実21人）

R4年度：実93人（うち自殺に関すること 実23人）

## ■自殺に関する相談者 年代別内訳

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
R3年度	7	1	4	1	5	3	0	0	0	21
R4年度	3	3	4	4	3	3	2	0	1	23

相談者の悩み  
「これからどのように  
接したらよいのか」

⇒ 10代の自殺企図等に関する相談者数は全体の**約2割**

自殺企図の原因は**学校問題、家族関係等**複雑に絡み合っている事例が多い



# 子どもの自殺予防は 喫緊の課題

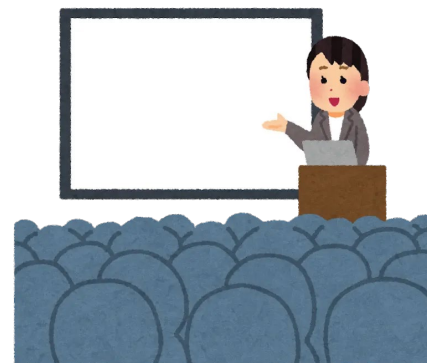
- ① 支援者がsosの受け止め方や自傷行為への対応を習得する目的で研修会を実施
- ② 子どもが悩みを相談できる場を知ることが目的に健康教育を実施

# 取り組み・結果

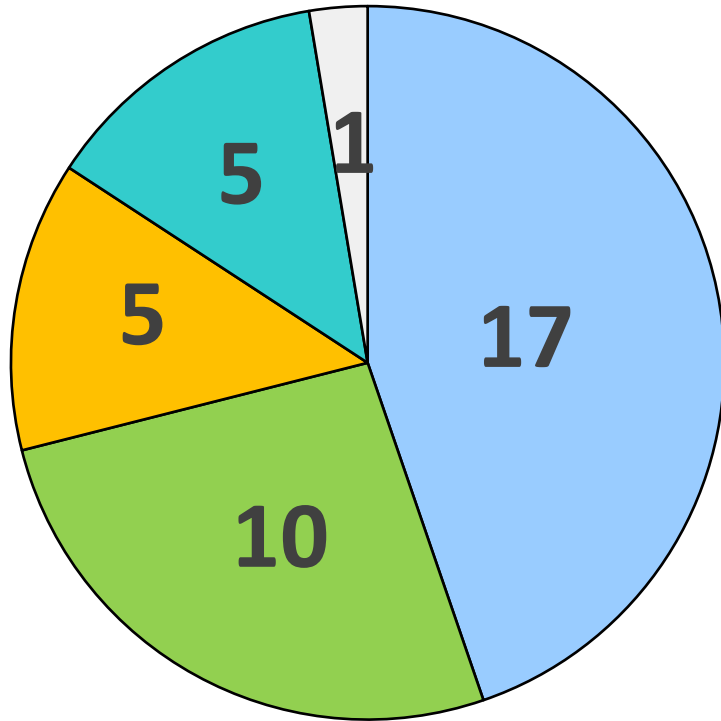


# 子どもの自殺予防に関する研修会 内容

- (1)日程：令和5年8月17日
- (2)対象：医療機関職員、教育関係者、行政機関職員  
地域支援者（日向入郷地域自殺対策協議会委員等）
- (3)内容：講演（自殺の現状、自傷行為への対応等）  
ロールプレイ  
（生徒の自傷行為に気付いた時の声かけ）



# 参加者



行政機関職員 : 17名  
医療従事者 : 10名  
教育関係者 : 5名  
地域支援者 : 5名  
その他 : 1名

---

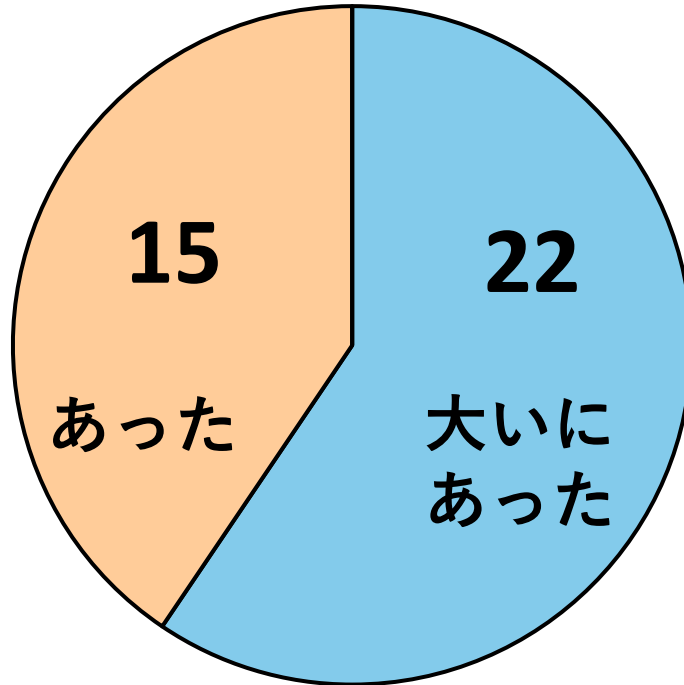
合計 : 38名

■ 行政機関職員   ■ 医療従事者   ■ 教育関係者  
■ 地域支援者   ■ その他

# 研修会後アンケート①

今後の支援に活かせる学び・気づきがあったか

回答率 37 / 38



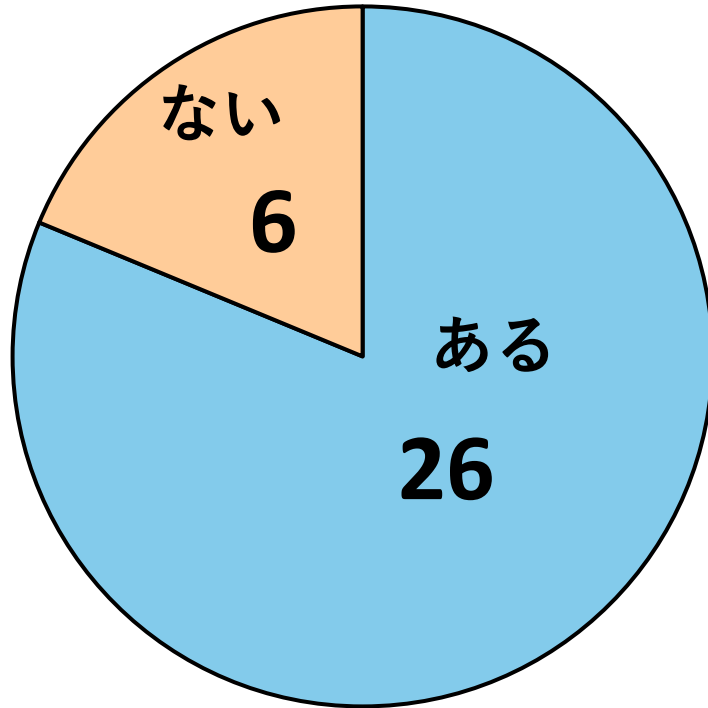
日頃の声かけが  
大切

■大いにあった ■あった ■なかった

「今後の支援に活かせる学びが大いにあった」 「あった」が**100%**

# 研修会後アンケート②

子どもの対応・接し方等で難しいと感じることはあるか 回答率 32 / 38



■ある ■ない

- ・自分の気持ちを表出するのが苦手な子どもの気持ちを知りたいとき
- ・信頼関係の築き方 など

子どもの対応で困難さを感じたことがある人は**81.3%**

# 健康教育 実施内容

(1)日程：令和6年3月7日、11日、13日

(2)対象：A・B・C地域の中学3年生（計58名）

A・B・C地域には  
高校がない

高校進学後は**環境の変化**により不安を抱えるのでは？

(3)方法：①役場主催の性教育授業後に実施  
②教諭から生徒に啓発媒体を配布

# 教育内容

心と体の  
SOSサイン



悩みがある  
ときの対応

相談窓口

# 啓発媒体（ポケットティッシュ）

ひとりで悩まないで！ 誰かに話してみませんか？

宮崎県子ども・若者総合相談センター「わかば」

TEL 0985-41-7830

月火水金土(祝祭日・年末年始を除く)／10時～17時

NPO 法人 チャイルドラインみやざき

チャイルドライン(18歳までのこども専用電話)

TEL 0120-99-7777

月～日／16時～21時

教育委員会 24時間子供 SOS ダイヤル

TEL 0120-0-78310

年中無休／24時間

日向保健所

TEL 0982-52-5101

月～金(祝祭日・年末年始を除く)／8時30分～17時15分



ホームページも  
見てね！



ひなたのおせっかい

宮崎県自殺予防ポータルサイト

# 啓発媒体 (チラシ)

大切なあなたへ  
~いっちゃんが！ひとりで悩んで~

このような悩みはありませんか？

友達や家族との  
関係がうまく  
いっていない



将来が  
不安

このような心や体のサインはありませんか？

眠れなかったり  
食欲がない

気持ちが  
落ち着かない  
状態が続く


体の痛みが  
出てきたり  
疲れやすい

何もする気に  
なれない

心がモヤモヤしたり、ざわついたら  
誰かに相談してみようね？



＊全国の相談窓口を紹介しています

 まもろうよこころ

<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>

☆宮崎県の相談窓口は裏面を見てね！

厚生労働省、「こころもメンテしまろ 若者のためのメンタルヘルズブック」  
<https://www.mhlw.go.jp/kokoro/youth/download/index.html>、(参考2024-01-16)  
厚生労働省、「まもろうよこころ」  
<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/sasaeai/>、(参考2024-01-17)

作成：宮崎県日向保健所（令和6年1月）

## ☎ 相談窓口

こころの電話

TEL 0985-32-5566

月～金（祝祭日・12月29日～1月3日を除く）／9時～19時

NPO法人国際ビフレンダーズ

宮崎自殺防止センター

TEL 0985-77-9090

月・水・金・日／20時～23時

NPO法人宮崎いのちの電話

TEL 0570-783-556

月・水・金／21時～翌朝4時 日・火・木・土／18時～翌朝4時

日向保健所

TEL 0982-52-5101

月～金（祝祭日・12月29日～1月3日を除く）／8時30分～17時15分

宮崎県子ども・若者総合相談センター「わかば」

TEL 0985-41-7830

月火水金土（祝祭日・年末年始を除く）／10時～17時

チャイルドライン（18歳までのこども専用電話）

TEL 0120-99-7777

月～日／16時～21時

教育委員会 24時間子供SOSダイヤル

TEL 0120-0-78310

年中無休／24時間

こころの健康に  
関する情報が  
見られます！



宮崎県、「宮崎県の自殺対策～誰も自殺に追い込まれることのない地域社会の実現を目指して～」  
<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/fukushihoken/kuurashi/shakaifukukushi/20191203100441.html>、(参考2024-01-15)  
宮崎県、「青少年に関する相談窓口一覧」  
<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kodomo-katei/eyoikukusodate/kodomo/page00053.html>、(参考2024-01-15)



# 結果

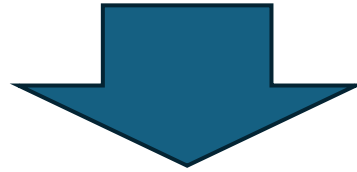
- 保健師やチラシを見ながら、真剣に話を聞く、生徒の様子があった。
- 健康教育後アンケートは未実施。



# 考察

# 子どもの自殺予防に関する研修会

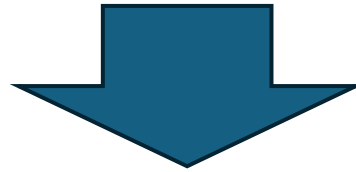
- ・「今後の支援に活かせる」と答えた割合が高かった。
- ・研修会終了後に参加者同士で話す姿がみられた。



**支援者が子どもの自殺の現状や、sosの気づき方・  
関わり方を習得する機会を設けることが大切！**

# 子どもの自殺予防に関する研修会

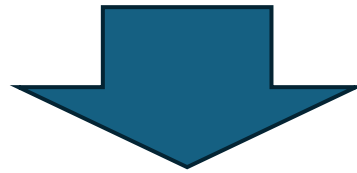
子どもの夏季休暇期間の8月に研修会を開催したが、教育関係者の参加が少なかった。



- ・ 教育委員会と共催して研修会を開催する
- ・ 校長会や養護教諭部会に赴き周知する

# 健康教育

地域保健師や教育委員会、中学校教諭と連携することで実施できた。



**子どもの自殺予防は学校と地域との連携が必要！**

# 健康教育

健康教育後のアンケートは未実施のため、生徒の反応は把握できていない。



健康教育を実施する際には、生徒や学校教諭からの  
アンケート等を実施することで評価し支援に活かす。

# おわりに

子どもの自殺予防は地域全体で連携することが大切！

家庭

保護者等

学校

教職員



地域

住民、役場  
保健所等

自殺の現状や関わり方を習得する機会を設け、**地域で子どもを見守ることのできる仕組みづくりを進めたい。**

ご清聴  
ありがとうございました。

